

B I  
186

池田 觀  
纂輯

小學修身新篇

初等科

卷一

176  
4  
168

東行

一 一 册	二 八 號	二 架	一 八 函
-------------	-------------	--------	-------------

區 去 一 易

K110.1  
209  
1



福羽義静校閲  
池田觀纂輯

初等科卷之一

# 小學脩身新篇

版權所有 東崖堂刊行

## 例言

一余曩ニ脩身小學讀本ヲ纂述シ發行スル  
ニ幸ニ府縣ノ教科ニ傳播セリ爾後竊ニ文  
部省ヨリ頒布セララル、脩身書編纂方法大  
意ヲ聞クヲ得タリ其方法大意ノ主旨ヲ視  
ルニ善行略傳ヲ省キ專ラ和漢古今先哲ノ  
嘉言ヲ蒐輯スベキノ意ニ基キ儒教主義ヲ  
以テ更ニ一書ヲ編ミ脩身新篇ト題ス  
一此書ノ要主タル道德彝倫ヲ以テ基トス

小學脩身新篇 例言

レバ仁義忠孝ヲ先トシ別ニ類ヲ分タズ古  
今ノ金言名論中ヨリ斷章錯載シ兎輩ヲシ  
テ明倫脩德ニ歸セシメントス而シテ其禮  
法ノ如キハ之ヲ卷末ニ於テ附録トス  
一此書五卷ヲ以テ初等科ニ充ツ則初卷ハ  
初等一年前期ノ口授用ニ供シ而シテ一年  
後期ニ至リ該初卷ヲ以テ講習用ト為サン  
トス

一此書經史及ビ雜書中ニ就キ摘採スル所

ノ書名或ハ姓名ヲ每章ニ之ヲ掲グト雖和  
漢ノ書中原文意稍高尚ニ涉ルモノ之ヲ譯  
スルニ初卷ハ務ノテ假字ヲ雜ヘ幼童ノ諳  
記ニ便ス

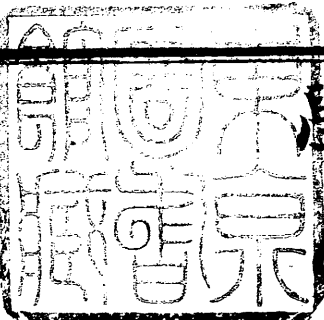
一此書淺近ヨリ深遠ニ至ルヲ期シ初等科  
ハ務ノテ短文ヲ以テ主トナシ文字モ大字  
ヨリ小字ニ至ル卷ヲ逐フテ字數ヲ增加ス  
一此書孝悌忠信禮義廉耻ニ關スル嘉言ヲ  
博載スルヲ要スレバ中等科ニ至リテ公覆再

出スルモ蓋シ多カラシ學者其重複ヲ以テ  
幸ニ言ヲナス勿レ

明治十六年二月

編者識

小學修身新篇卷之一



福羽美静校閱  
池田觀纂輯

第一章

○孝も百行のもも。  
翁問答

○父母も。わが身のも

となり。禮記

○父母に。あらざれむ。

生きず。國語

○父母の恩。まはまり

なると。いと。天地に。ひと

。大和俗訓

○人の。子たるも。れ。父

母の。心をもつて。心と

まづ。王通

○人のたこなひ。孝よ

り。大ふるはな。孝經

○父母も。たつときも

のなるぞ。大己貴命

○孝は。よく父母ふつ

かふるをいふ。丘濬學的

○父母に。つかふるふ

は。温和を。主とす。家道訓

○父母のたほせ。た

がふ。べからず。禮記

○父母をいつくしみ

うやまふも孝なり。

童子訓

○いつくしみうやま

ふ心をもつてよく親

をやいなふを孝とす。

初學訓

○父母のあいするど

ころい。又こきをあい

し。曾子

父母のうやまふこと

るも。又おれをうやま

ふづー。曾子

○父母。こきをあひす  
れば。よるこびて。あを  
とす。曾子

父母。おれをにくめむ。

たろきて。うらむるな

。曾子

## 第二章

○高きにのほらず。ふ  
かきぬのづまず。禮記



○あろぶに。つねのこ  
ころありて。みだりふ  
ゆかず。初學訓  
ならふに。つねの業あ  
りて。たふたらず。初學訓

○出入をるとき。いかに  
ならず。父母に。つぐべ

。禮記

○親を愛するものは。  
あへく人を悪まず。孝經

○名をあげて。父母を  
あらわさぬ。孝のをは  
り。孝經

○孝ハ親をやをんず  
るより大なるはふし。  
揚子

○親ハ孝を行なふみ  
ちハ親のたほせふ。ろ  
むかず。五常訓

○父母命じてよべむ。  
唯してだくせず。禮記

○天子より。庶人にいたるまで。みな身を脩むるをもつて。もどとす。大學

○父母の恩を。山より

もたか。古言

父母のめぐみも。海よりもふか。古言

○親の恩をしらざるは。とりげものなり。

○温順なるものによ  
と人もあるづ。聖諭

○知るいやをく行ふ  
はかたし。梅園叢書

○大孝も師友のをし

ついまゝめえつとめ  
てまもるづ。杏翁醉話

○大孝ハ身をとほる  
もで父母をしたふ。孟子

○孝もどくのもとふ

り。孝經

教のよりて。生むる

こるなり。孝經

第三章

○孝悌を。あつくして

もつゝ。人倫を。ねもん  
ず。聖諭

○兄を。父につぎて。た

つとぶ。初學訓

○兄は弟ふ。いつくし

みふかく。弟は兄にう  
やまひ。あつくすづ。初學訓  
○悌とも。兄とらやま  
ひ。弟をあひすること  
なり。父子訓

○弟をもつて。長につ  
かふる。すふはち順な  
り。孝經

○順とは。めうへふつ  
かふるの。みちなり。

父子訓

○兄に。つかふること。  
弟ふり。ゆゑふ。順長に

うづすべし。孝經

○兄弟むつまじくを  
るハ。父母をたのしま

しむるなり。翁問答

兄弟むつまじからざ

まバ。その親うれふ。顔氏家訓

○兄弟ハ。かたちをわ  
かち。氣をつらぬる人

なり。顔氏家訓

○兄弟も。左右の。てれ

いとし。後漢書

○弟ハ。父母の子なれ  
む。わが子よりも。あい

すべし。禮記

○今の孝ハ。これよく。

やしなふをいふ。論語

犬馬ふいたる。みなよ  
く。やしなふあり。うや



小學修身新篇 卷一

まはむんむ。何をもつ

て。あかたんや。論語

玉木堂石書 印

小學修身新篇卷之一終

附録禮法生徒心得

都て小兒も。父母。長者の教へ不順ふべし。教へた

順ふ小兒は。人小褒めらるも。愛せられ。教へ小背く

小兒も。人小憎まらるも。嫌もらるべし。

朝ハ早く起る。顔を洗ひ。口を嗽ぐべし。

顔を洗へむ。父母の前へ行と。手をつきて。撲撻を

べし。

寝る時あも。父母の前へ行と。手をつきて。亦撲撻

すべし。

毎朝髪ハ櫛るべし。

小學修身新篇 卷一 附録

食事の時ハ。行儀よく。膳小向ひ。箸をとり。飯粒ふご。散まづつゝべ。

食物の好悪を言ひ。擇び食ひまづからず。食終れば。一禮して坐を起つべ。

食する時ハ。語るべからず。寝るときハ。言ふべつゝべ。

父母長者の前へつゞくは。足を横たへ。欠し。伸し。唾はき。大笑ひふどまづつゝべ。

父母長者より。物を賜ふる時ハ。戴きて之をうけ。大切小して。これを納むべ。

父母長者。食物を賜けり。其處ふて。食へとの命ふけれ。退きて之を食ふべ。

來客あり。酒食を侑むるとき。父母の命ふらむまば。其席ふいつることふかれ。

父母長者の呼ばる時ハ。其聲小應じて起ち。其命を受くべ。

總て應辭ハ。早くすべ。

父母長者の命あらば。手をつきて。之を受くべし。使ひふつど。先方より返事あつば。直につぐべし。

門戸を出入するふは。父母長者に先んぢつべ。

父母。長者と道を行くものは。後へに従ふべし。

附錄禮法生徒心得終

明治十五年九月廿九日版權免許  
同 十六年四月 出版



編輯人

池田

觀

福井縣士族

岐阜縣平民

大阪府東區常磐町  
二十番地寄留

出版人

山岸彌平

同府同區北濱二丁目  
五十五番地寄留

發兌

東京々橋區桶町

東崖堂

大阪東區北濱二丁目

東崖堂

書肆

岐阜縣岐阜西材木町

東崖堂

池田 觀纂  
田 輯

# 小學修身新篇

初等科

卷二

176  
4  
168

東 一 七

大日本教育會館			
一	二	一	
一	八	二	八
冊	號	架	函

函 一 架 一 號

K110.1  
209  
2